

教育研究業績書

2020年10月27日

所属：健康・スポーツ科学科

資格：准教授

氏名：中堀 千香子

研究分野	研究内容のキーワード
スポーツ医学, コンディショニング, アスレティックトレーニング	スポーツ外傷・障害予防, コンディショニング, ジュニアアスリート, 女性アスリート
学位	最終学歴
修士 (体育学)	筑波大学大学院 体育研究科 応用健康スポーツ専攻 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要

1 教育方法の実践例		
1. オンライン授業での双方向授業	2020年4月～現在	オンライン授業実施に際し、Google フォームを用いたリアルタイムテスト、zoomを用いたグループディスカッションによる、slackを用いた資料共有型のアクティブラーニング授業を実施した。
2. 「初期演習 I」における新入生フォローアップ	2019年4月 1日～現在	1年生担任として「初期演習 I」を担当。初回授業開始までにmwu.jpで「classroom」を立ち上げ連絡システムを整備し、新入生に特化した情報提示や非常時の緊急連絡網の整備を行い新入生へのきめ細かいフォローに利用している。
3. 学生のスポーツを通じた社会貢献活動の取り組み	2019年12月	「第21回兵庫県デフJrテニス教室」（主催：NPO法人デフテニスジャパン／協力：武庫川女子大学）を開催。本学学生が本学テニスコートにて聴覚にハンディキャップを持つ地域の小学生に対しテニス教室を開催し、交流・技術指導を行った。
4. スライド講義に対応したノート作成によるアクティブラーニングの促進	2018年4月～現在	大人数講義にて講義内容の理解を深めるためにはPPTを用いた進行が有効である。ただし学生にとっては画面に映し出される情報に対して瞬時にポイントを判断してノートを作成するのは難しく、学習意欲を下げることが問題となる。「スポーツ外傷障害の基礎知識Ⅱ」の授業において映し出すスライドに対応したポイントを理解して記入できるノート資料を配布し、学生が能動的に内容の理解が深まるよう資料を作成した。
5. mwu.jpのゼミナールへの活用	2018年4月～現在	mwu.jpのクラスルームアプリを用いて研究室のクラスルームを立ち上げた。その中に研究で使用する論文pdfやゼミのテーマに関わる情報を発信した。また、授業内発表に対する課題の提示、課題の提出をアプリで実施した。ゼミ研究等の連絡事項を掲示板を使い双方向で確認しながら進めた。
6. mwu.jpを利用した双方向講義の実践	2018年4月～現在	mwu.jp[class room]を使用し、各講義において講義資料の共有、事前課題の提示・回収、Google folmを用いた講義内テストなどを実施し、理解度の充実、双方向授業に役立てている

2 作成した教科書、教材		
1. コンディショニング指導論教材	2017年9月～	コンディショニング指導論の講義において、使用する講義内容に即したスライドをJSP0公認アスレティックトレーナー検定試験対策のポイントをまとめて作成した
2. アスレティックトレーニング教材	2017年9月～	アスレティックトレーニングⅠ、Ⅱ、Ⅲのそれぞれの講義が体系立ち、またより多くの知識が習得できるようできるようパワーポイントスライドを作成した。資格取得に必要な知識をわかりやすく提供するには効率化が必要と考えて実施した。また資格取得のために過去問を研究し、頻出問題と教科書記述部分に対応させて提示した。

3 実務の経験を有する者についての特記事項		

4 その他		
1. スポーツセンター副ダイレクター（コンディショニング支援）	2020年4月1日～現在	保健医療学部はり・灸トレーナー学科においてアスレティックトレーナー関連の講義担任を担当
2. スポーツセンター副ダイレクター（アスリート支援）	2019年4月1日2020年3月31日	
3. 硬式庭球部部长	2018年4月～現在	
4. 関西医療大学保健医療学部 非常勤講師	2012年4月～現在	

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要

1 資格、免許		
1. ライフキネティックトレーナー	2019年8月～	
2. 日本トレーニング指導者協会認定トレーニング指導者	2018年2月～	

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
3. JADAドーピングコントロールオフィサー	2012年4月～	
4. 日本体育協会公認アスレティックトレーナー	2000年10月～	
5. はり師・灸師	1996年6月～	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. スポーツ庁スポーツ研究イノベーション拠点形成プロジェクト (SRIP) プロジェクトメンバー	2016年7月～	2020年東京オリンピック・パラリンピック、並びにそれ以降の日本の国際競技力向上に貢献することを目指し、国内外の異分野研究機関などとの産学連携を通じて、スポーツ研究イノベーション拠点を形成するプロジェクト (SRIP) メンバーとしてサッカー競技を中心に活動
2. 日本体育協会 スポーツ医・科学研究研究班	2010年4月1日～2012年3月31日	日本体育協会スポーツ医・科学研究のスポーツ外傷の予防分野から「日本におけるスポーツ外傷サーベランスシステムの構築」研究班員としてサッカー競技での障害調査・分析した。
3. JOC競技強化スタッフ (サッカー)	2007年4月～2008年3月	JOCサッカー競技の強化スタッフとしてサッカー女子日本代表アスレティックトレーナーとしてチーム帯同した。
4 その他		
1. ラグビーワールドカップ2019日本大会	2019年9月～2019年10月	医事・薬事会場担当として帯同
2. U-18サッカー日本女子代表 アスレティックトレーナー	2010年9月～2011年3月	U-18サッカー日本女子代表アスレティックトレーナーとして、国内外強化トレーニングキャンプに帯同した。
3. JFAメディカルセンターアスレティックトレーナー	2009年8月～2011年3月	FIFAゴールプログラム初の医療施設としてアスリートに対して専門的な医療サービス、メディカルチェックやフィジカルチェックの測定データやスポーツ障害の症例等の蓄積・分析・研究、および地域住民向けの医療サービスを提供する日本サッカー協会が運営する医療センターのアスレティックトレーナーとして勤務
4. U-19サッカー日本女子代表 アスレティックトレーナー	2009年1月～2010年7月	U-19サッカー日本女子代表チームアスレティックトレーナーとしてチーム帯同し、AFCU-19女子選手権 (中国) に参加し優勝、FIFA女子U-19ワールドカップ2010ドイツに出場し、グループリーグ敗退の成績を収めた。
5. U-17サッカー日本女子代表 アスレティックトレーナー	2007年5月～2008年11月	U-17サッカー日本女子代表チームアスレティックトレーナーとしてチーム帯同し、FIFA女子U-17ワールドカップ2008 ニュージーランドベスト8の成績を収めた。
6. サッカー日本女子代表 (なでしこジャパン) アスレティックトレーナー	2007年2月～2007年7月	サッカー日本女子代表 (なでしこジャパン) アスレティックトレーナーとしてアジア女子サッカー2008 (北京オリンピック最終予選) およびFIFA女子ワールドカップ中国2007最終予選プレーオフに帯同した。
7. JFAアカデミーアスレティックトレーナー	2006年4月～2017年7月	公益財団法人日本サッカー協会が運営する「世界基準」をキーワードとし、ロジック形式による中高一貫教育によるサッカーエリート育成施設でのアスレティックトレーナーとしてJFAアカデミー福島、堺を歴任した。また、日本サッカー協会ATとして育成年代の代表選手育成事業のメディカル担当として各種事業担当した。
8. U-20サッカー日本女子代表 アスレティックトレーナー	2005年5月～2006年4月	サッカー日本女子代表チームアスレティックトレーナーとしてチーム帯同し、AFC U-19女子選手権マレーシア2006に参加し、4位の成績を収めた。
9. 東海大学体育会サッカー部アスレティックトレーナー	2004年4月～2006年3月	東海大学体育会サッカー部アスレティックトレーナーとして男子大学選手のメディカルサポートを行った
10. JR東日本古河サッカークラブ (ジェフユナイテッド市原・千葉) アスレティックトレーナー	2000年6月～2004年1月	Jリーグ下部組織ユース・ジュニアユースチームの育成担当アスレティックトレーナーとして常勤契約し医事運営担当
11. 第54回国民体育大会 (熊本国体) サッカー競技少年男子大阪府代表チーム帯同	1999年10月	サッカー競技少年男子大阪府代表チームのアスレティックトレーナーとして第54回国民体育大会 (熊本) に帯同し第3位の成績を収めた
12. 第53回国民体育大会 (かながわ国体) 大阪府成年女子サッカーチーム帯同	1998年10月	サッカー競技成年女子大阪府代表チームにアスレティックトレーナーとして帯同し第53回国民体育大会 (神奈川県) にて第3位の成績を収めた
13. 第52回国民体育大会 (なみはや国体) 大阪府成年女子サッカーチーム帯同	1997年10月	サッカー競技成年女子大阪府代表チームにアスレティックトレーナーとして帯同し第52回国民体育大会 (なみはや国体) にて優勝の成績を収めた
14. 夏季ユニバーシアード (福岡大会) サッカー競技男子日本代表チーム帯同	1995年8月	ユニバーシアードサッカー競技男子日本代表チームにチームメディカル補助として帯同し夏季ユニバーシアード (福岡大会) サッカー競技において優勝の成績を収めた

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 平成27年度 日本体育協会スポーツ医・科学研究報告 ジュニア期	共	2015年	日本体育協会	「2-1各競技におけるスポーツ外傷・障害予防プログラムの検証 サッカー」佐藤泰明・加藤晴康・中堀

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
におけるスポーツ外傷・障害予防への取り組み—第3報—				千香子・馬越博久・福林徹. 5-15, 2015. 本研究は、ジュニア期に頻発、あるいは、重篤な事故に結びつきやすいスポーツ外傷・障害を予防するためのプログラムを開発し、事故発症リスクの高いと考えられる集団への介入研究を実施した。
2. 平成26年度 日本体育協会スポーツ医・科学研究報告ジュニア期におけるスポーツ外傷・障害予防への取り組み—第2報—	共	2014年	日本体育協会	「2-1各競技におけるスポーツ外傷・障害予防プログラムの検証 サッカー」佐保泰明, 加藤晴康, 中堀千香子, 馬越博久, 福林徹. 4-12, 2014. ジュニア期に頻発、あるいは、重篤な事故に結びつきやすいスポーツ外傷・障害を予防するためのプログラムを開発し、事故発症リスクの高いと考えられる集団への介入研究を実施。医・科学面でのエビデンスを蓄積するとともに、予防プログラムが確定した後は本会の関係機関を通じて普及・啓発を図る。
3. 平成25年度 日本体育協会スポーツ医・科学研究報告ジュニア期におけるスポーツ外傷・障害予防への取り組み—第1報—	共	2013年	日本体育協会	「2-1各競技におけるスポーツ外傷・障害予防プログラムの検証 サッカー」佐保泰明, 加藤晴康, 中堀千香子, 馬越博久, 小林拓馬, 福林徹. 5-14, 2013. 本研究は、ジュニア期に頻発、あるいは、重篤な事故に結びつきやすいスポーツ外傷・障害を予防するためのプログラムを開発し、事故発症リスクの高いと考えられる集団への介入研究を実施した。本研究では予防プログラム案を作成し、介入研究に着手した。
4. 平成24年度 日本体育協会スポーツ医・科学研究報告日本における外傷サーベライシステムシステムの構築—第3報—	共	2012年	日本体育協会	「3-1. サッカーにおけるプログラム検証」佐保泰明, 中堀千香子, 福林徹. 80-87, 2012. 我が国における全国的なスポーツ外傷統計として、日本スポーツ振興センターおよびスポーツ安全協会における事故統計データを集計・分析した。また、日本の主要競技会におけるスポーツ外傷調査を規格化し、国際的な基準に合わせて比較検討できるシステムを構築することを目的とする調査研究を実施した。
5. 平成23年度 日本体育協会スポーツ医・科学研究報告日本における外傷サーベライシステムシステムの構築—第2報—	共	2011年	日本体育協会	「2-1. サッカー：Jリーグ、なでしこリーグ、Fリーグにおける外傷調査(2011)」池田浩, 中堀千香子, 福林徹. 33-40, 2011. 「3-1 スポーツ外傷・障害予防プログラムの開発・検証 サッカー」中堀千香子, 池田浩. 63-67, 2011. 日本におけるスポーツ外傷調査を規格化し、国際的な基準に合わせて比較検討できるシステムを構築することを目的とした調査研究を行った。前年に続き、学校管理下・管理外における全国的なスポーツ外傷統計調査および国内主要競技会におけるスポーツ外傷発生調査を行った。また、スポーツ外傷・障害予防プログラムの開発・検証を目的として介入調査を行い、外傷発生頻度やパフォーマンスに及ぼす影響を検討した。
6. コーチとプレーヤーのためのサッカー医学テキスト	共	2011年	金原出版	第7章現場での処置・ケガからの復帰「予防プログラム」財団法人日本サッカー協会スポーツ医学委員会編, 浅井武, 池田浩夫, 池田浩, 大場俊二, 中堀千香子, 福林徹ら. 98-106, 2011. バイオメカニクス, コンディショニング, メディカルチェック, 外傷・障害, 内科的疾患, 栄養など「サッカー医学」の主要な情報を収載。サッカーにおけるスポーツ障害予防プログラムであるThe11+の作成動機、介入実績、実施方法について紹介した。実施方法にはコンプライアンスの重要性が高いことを啓発している。
7. 平成22年度 日本体育協会スポーツ医・科学研究報告日本における外傷サーベライシステムシステムの構築—第1報—	共	2010年	日本体育協会	「2-1. スポーツ外傷発生調査【サッカー】(1)Jリーグ、なでしこリーグ、Fリーグにおける外傷発生調査」池田浩, 中堀千香子, 福林徹. 27-38, 2010. 「3-1スポーツ外傷・予防プログラムの開発・検証. サッカー」中堀千香子, 加藤晴康, pp54-63, 2010. 日本におけるスポーツ外傷調査を規格化し、世界基準と比較検討できるシステムを構築することを目的とした調査研究を行った。全国的なスポーツ外傷統計について、日本スポーツ振興センター、スポーツ安全協会と協力し、学校管理下・管理外における部位/疾患/種目別の解析を試みた。また、国内主要競技会におけるスポーツ外傷発生調査についてIOC基準に準拠した解析を実施するとともに、既存の障害予防プログラムの有効性検証や予防法確立に向けた実態調査を行った。
2 学位論文				
3 学術論文				
1. Age Differences in Change-of-D	共	2015年	Int J Sports Physiol	Norikazu Hirose, Chikako Nakahori. 10(4), 440-44

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
irection Performance and Its Subelements in Female Football Players			Perform	5, 2015. 女性アスリートの方向転換能力向上要因分析と年代別トレーニング構築について検討した。方向転換能力は中学生から高校生期に著しく向上すること、その向上は、形態、スピード、筋パワーの変化は年代にかかわらず関連せず特異的な変化であった。動作分析においては減速機から停止期にかけて要する時間が短く、単位時間あたりの重心移動量が大きいことが方向転換スピードに関連することが示唆された。
2. 成長期腰椎分離症の予防に関する検討	共	2010年	日本臨床スポーツ医学会	三澤辰也, 藤本栄雄, 島田真梨子, 中堀千香子, 加藤晴康, 土肥美智子, 福林徹, 紺野慎一
3. JFAアカデミー福島のメディカルサポート	共	2008年	フットボールの科学 2008 Vol. 3 P4-8	藤本栄雄・中堀千香子
4. 女性サッカー選手における試合期間中の唾液DHEAの変動	共	2004年	体力科学	相澤 勝治, 中堀 千香子, 秋本 崇之, 木村 文律, 林 貢一郎, 河野 一郎, 目崎 登. 53(1), 149-156, 2004. アスリートにおける継続的なトレーニング負荷の変動に伴うDHEAの応答性を把握するために、大学女性サッカー選手を対象に、試合期間中の唾液DHEAの動態について検討した。唾液中DHEA濃度は試合前に比べ試合中に明らかに増加し、疲労を伴う過剰なトレーニング環境下で顕著に増加した。このため女性アスリートにおいて、DHEAはトレーニング変化にตอบสนองする内分泌学的因子となる可能性が示唆された。
5. Acupuncture and responses of immunologic and endocrine markers during competition	共	2003年	Med Sci Sports Exerc	Akimoto Takayuki, Nakahori Chikako, Aizawa Katuharu, Kimura Fuminori, Fukubayashi Toru, Kono Ichiro. 35(8), 1296-1302, 2003. 女性アスリートにおける鍼刺激による免疫応答および主観的疲労度を鍼刺激群と対照群の2グループ間において比較検討した。唾液分泌型の免疫グロブリンA (sIgA) の分泌量低下と唾液分泌コルチゾル濃度の上昇は鍼刺激群により有意に認められた。また筋緊張の緩和、疲労感の主観的項目は鍼刺激群にて有意に改善していた。これらの結果により鍼治療は肉体的、精神的コンディショニングの改善に大きく寄与する可能性が示唆された。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 大学生女子アスリートにおける動的バランスと競技特性との関連		2019年11月17日	第30回日本臨床スポーツ医学学会	中堀千香子、堀部秀二、高尾理樹、小笠原一生、中田研、小柳好生)
2. 女子中学生サッカー選手の体組成変化	共	2016年	日本臨床スポーツ医学会	高尾理樹夫, 中堀千香子, 川上由紀子, 内田良平, 天野大, 中田研, 堀部秀二
3. ジュニア期におけるスポーツ外傷・障害予防への取り組み -サッカー-	共	2015年	日本臨床スポーツ医学会	佐保泰明, 馬越博久, 加藤晴康, 中堀千香子, 岩田清志, 島田真梨子, 中條智志, 松木仁志, 池田浩, 福岡重雄, 宮川俊平, 森川嗣夫, 立石智彦, 土肥美智子, 福林徹
4. 男女エリートサッカー選手の方 向転換能力の横断的变化とトレーニングに関する考察	共	2013年2月3日	第1回日本アスレティックトレーニング学会学術集会	広瀬統一、中堀千香子、関大悟
5. 成長期サッカー選手に対する傷害 予防プログラム「11+」の効果	共	2013年	日本臨床スポーツ医学会	佐保泰明, 中堀千香子, 松田拓也, 中條智志, 加藤晴康, 福林徹
6. オスグッド・シュラッター病早期 発見の取り組み	共	2011年	日本臨床スポーツ医学会	中條智志, 加藤晴康, 藤本栄雄, 三澤辰也, 中堀千香子, 松田拓也, 島田真梨子
7. オスグッド-シュラッター病(オス グッド病)を早期安静にて治療した 症例の利点と問題点	共	2010年	日本臨床スポーツ医学会	藤本栄雄, 加藤晴康, 三澤辰也, 中堀千香子, 島田真梨子, 土肥美智子, 紺野慎一, 福林徹
8. ジュニアサッカー選手における貧 血の検討-スポーツ現場への提言-	共	2010年	日本臨床スポーツ医学会	土肥美智子, 中堀千香子, 三澤辰也, 島田真梨子, 藤本栄雄, 加藤晴康, 福林徹, 川原貴
9. 育成期サッカー選手におけるコン ディショニングの検討~スポーツ傷害 発生数と鉄欠乏性貧血、持久的能力 の関係~	共	2010年	日本臨床スポーツ医学会	中堀千香子, 松田貴雄, 土肥美智子, 三澤辰也, 加藤晴康, 島田真梨子, 藤本栄雄, 福林徹
3. 総説				
1. サッカーにおける予防の取り組み (特集 手術後の再受傷・再損傷 予防の取り組み-そのメカニズム とリハビリテーションの実際; 競技別の取り組み	単	2011年	臨床スポーツ医学	28(4), 417-423, 2011. 「サッカー競技における予防運動プログラムTHE11+の方法とその効果を検証し報告した。
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. パネルディスカッション：育成世代のコンディショニング	単	2018年1月	OSAKAフットボールメディカルカンファレンス2018	社団法人大阪府サッカー協会主催医学科学カンファレンス「サッカーにおける育成世代のコンディショニング」テーマ内のパネルディスカッションで育成期女子選手のコンディショニングについて講演
2. パネルディスカッション：前十字靭帯損傷予防の成果と展望	単	2011年11月4日	チームドクタートレーナーミーティング	日本臨床スポーツ医学学会のスポーツ医学系別会にてパネルディスカッション：前十字靭帯損傷予防の成果と展望のうち「サッカーにおける予防」分野のパネリストとして話題提供を行った
6. 研究費の取得状況				
1. スポーツ庁委託事業 スポーツ研究イノベーション拠点形成プロジェクト (SRIP) ジャパン・スポーツ・サイバーフィジカルシステム (JS-CPS) 構築研究事業拠点	共	2019年4月1日～現在	スポーツ庁	スポーツ研究イノベーション拠点形成プロジェクトは2020年東京オリンピック・パラリンピックでのトップアスリートの活躍やその後の競技力向上を目指し、スポーツと異分野の融合・連携による独創的で革新的な研究を推進し、次世代の中核を担う優秀な若手スポーツ研究者を育成する事業である。 9つある事業プロジェクトのうち、本学はPJ3:バランス（神経-筋機能）（若年女性、成人女性の動的バランス測定、評価項目の検討）を担当する事業拠点として委託されており、その担当者として競技特性を踏まえた検討や直接的なアスリートのデータの現場実証を実施している
学会及び社会における活動等				
年月日	事項			
	日本臨床スポーツ医学会			